

第16回 湿原再生小委員会

－ 幌呂地区湿原再生について －

平成27年12月18日

目 次

1. 事業実施箇所の状況報告

1-1. 幌呂地区湿原再生実施箇所の現地踏査について

- (1) 事業実施箇所の状況
- (2) 事業実施箇所の植生状況（平成27年調査）
- (3) 事業実施箇所現地踏査結果

1-2. 地下水位の観測結果報告

1-3. 外来種（オオアワダチソウ）の調査結果報告

2. 今年度の工事予定

2-1. 平成27年度の実施内容について

3. 地域との連携

3-1. 現地見学会（ヨシ移植会）の報告

1. 事業実施箇所の状況報告

1-1. 幌呂地区湿原再生実施箇所の現地踏査について

平成24年～26年度に地盤の切り下げと未利用排水路の埋戻しを実施した箇所について、7月と10月の2度、植物の専門家とともに現地踏査を行いました。

◆目的

植物の専門家とともに現地踏査を行い植生の生育現状から湿原の再生状況について評価していただき、今後の湿原再生の参考とさせていただくものです。

○現地踏査1回目

踏査日：平成27年7月31日（金）

専門家：北方環境研究所 所長 神田先生（湿原再生小委員会委員長代理）

同行者：釧路開発建設部 治水課及び釧路河川事務所職員

○現地踏査2回目

踏査日：平成27年10月13日（火）

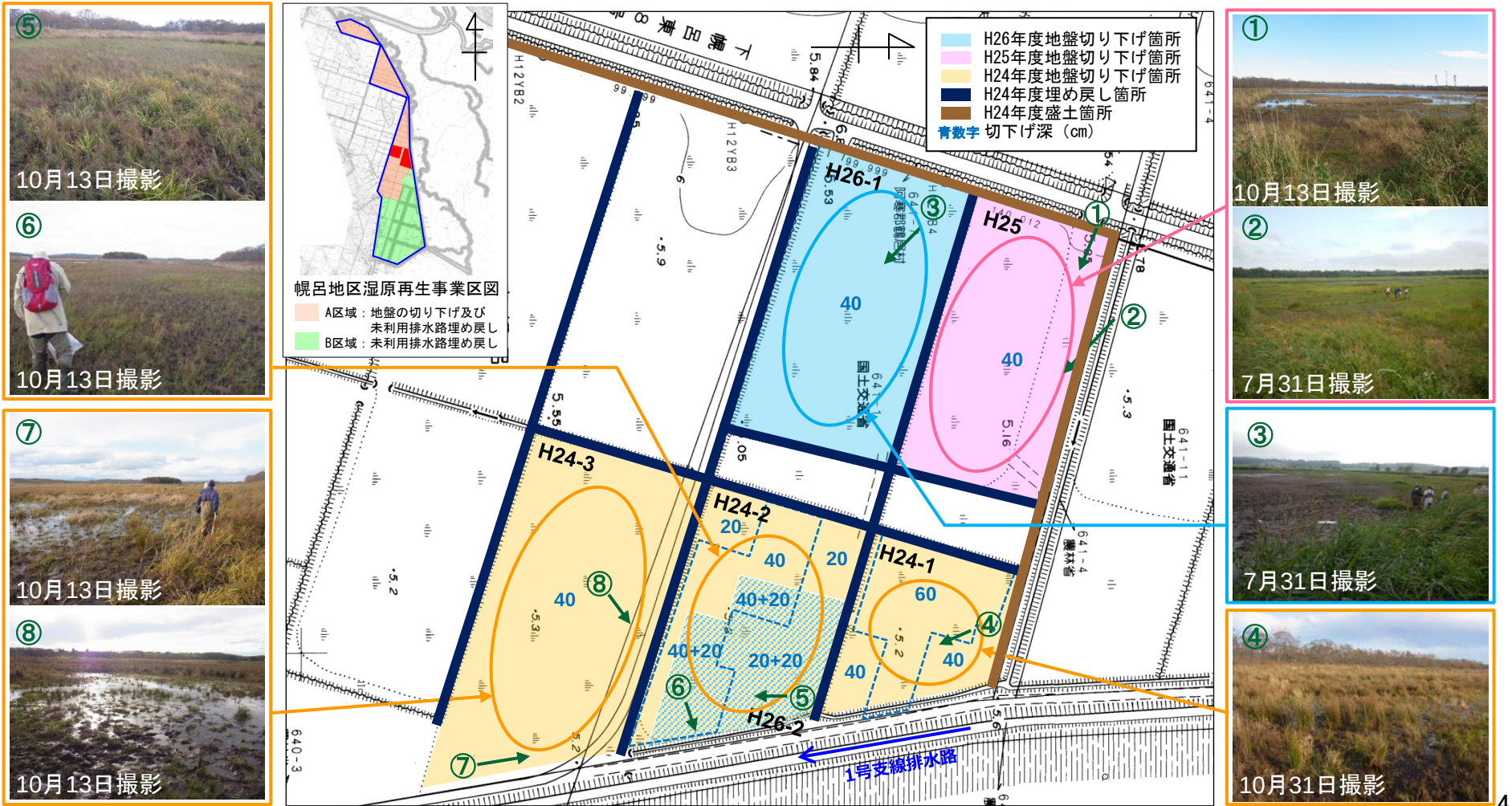
専門家：北方環境研究所 所長 神田先生（湿原再生小委員会委員長代理）

同行者：釧路開発建設部 治水課及び釧路河川事務所職員

1-1. (1) 事業実施箇所の状況①

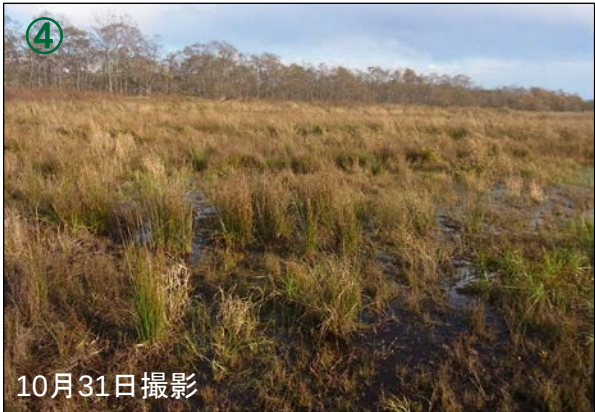
【各再生箇所における切下げ深の概要(各箇所の番号及び枝番は施工年次及び箇所分けを表す)】

- H24-1: 計画切深40cm(オオアワダチソウ無し)。事前調査でオオアワダチソウが確認された箇所については更に20cm切下げ※。
 - H24-2: 計画切深20cm(オオアワダチソウ無し)。事前調査でオオアワダチソウが確認された箇所については更に20cm切下げ※。
 - H24-3: 計画切深40cm(オオアワダチソウ考慮)。
 - H25 : 計画切深40cm(オオアワダチソウ考慮)。
 - H26-1: 計画切深40cm(オオアワダチソウ考慮)。
 - H26-2: 計画切深20cm(順応的管理として再度切り下げ)。
- ※計画当初、オオアワダチソウが見られなかった箇所でも、施工前の調査で広範囲な分布が確認された場合、冠水頻度高めるため切深を増やしています。



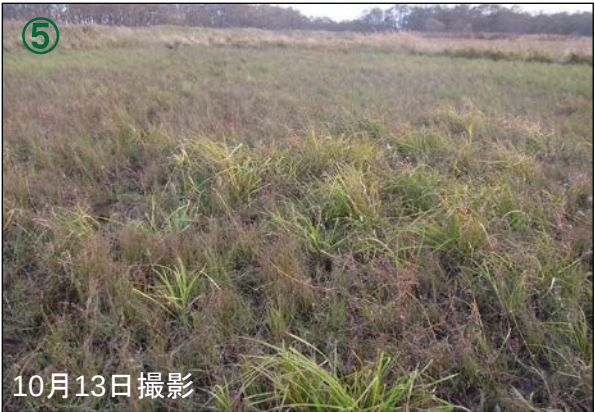
1-1. (1) 事業実施箇所の状況②

H24-1区画
地下水位WL+10~-10cm
掘削深40~60cm



- ・クサヨシは少し生えている程度でだいぶ少なくなった。
- ・切下げ深40cm箇所は、ミゾソバが多く生えており、このまま維持されると想定される。
- ・切下げ深40cmの箇所は、一年草であるアキノウナギツカミやイヌスギナが多い。将来的にはアブラガヤに植生が変わるかもしれない。

H24-2区画
地下水位WL+10cm~-10cm
掘削深20 ~60cm



- ・切下げ深20cmの箇所は、1年経過しても状態の変化はあまり無い。クサヨシ、オオアワダチソウが入ってきて元の状態に戻りつつある。
- ・オオアワダチソウは、地下茎からではなく種から生えてきたと思われる。
- ・切下げ深20cmの箇所は、去年はハルタデが多かった。今年はヤナギタデ・サナエタデが多くなっている。

H24-3区画
地下水位WL-10cm
掘削深40cm

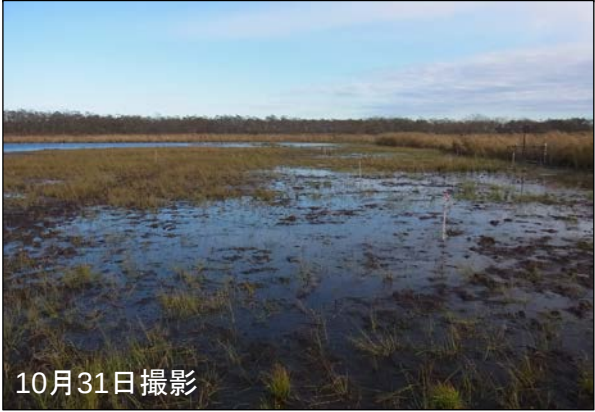


- ・湿原にもどる過程としては良い状態だと思われる。
- ・オオアワダチソウとクサヨシは7月と比べ勢いが無い。
- ・生えているオオアワダチソウは地下茎からではなく種から生えてきたと思われ、冬の間に枯死すると予想される。

1-1. (1) 事業実施箇所③

H25区画
地下水位WL-10cm
掘削深40cm

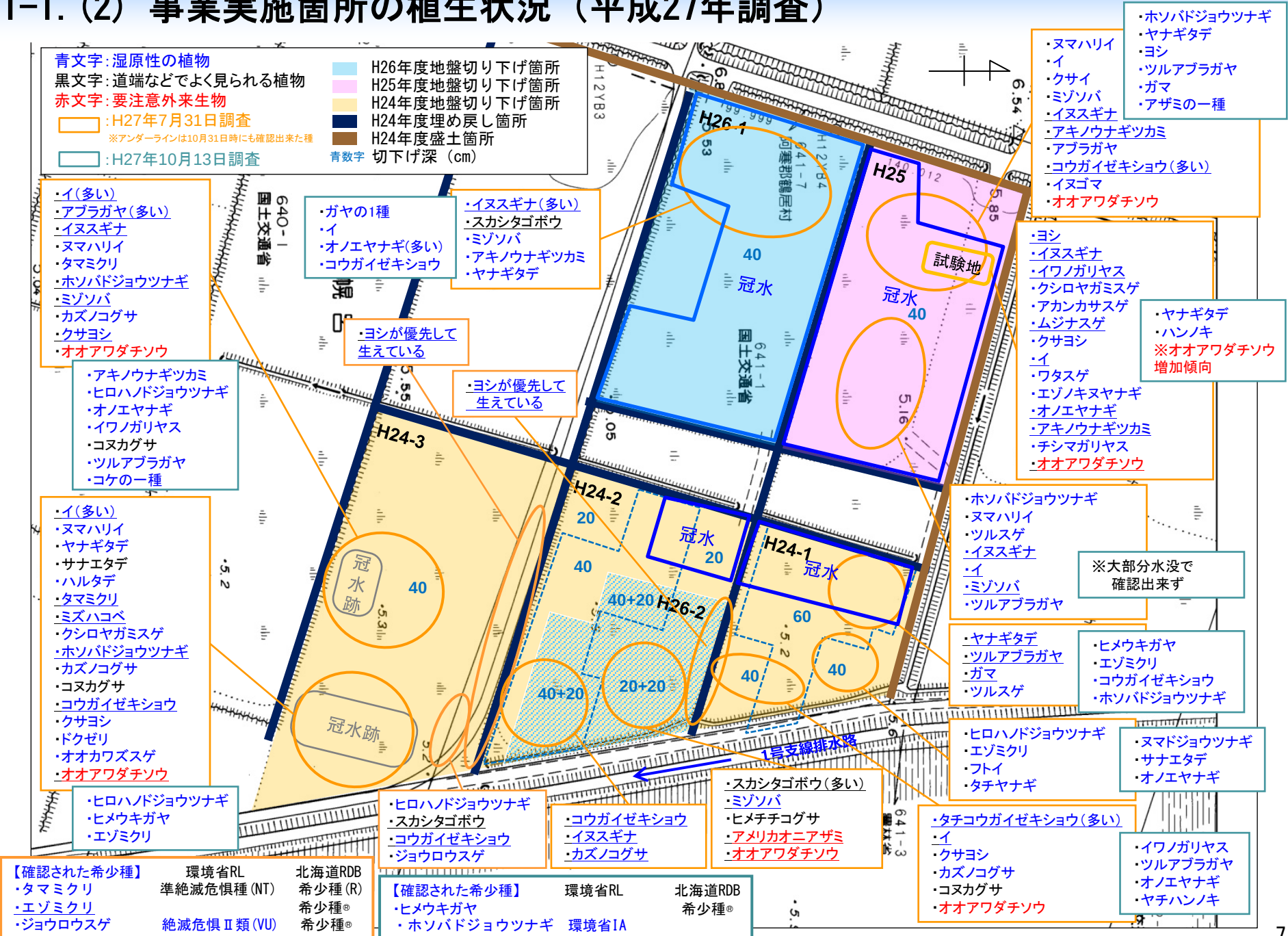
H26区画
地下水位WL-10cm
掘削深40cm



- ・オオアワダチソウが少し入ってきている。特に中央の地盤の高い試験地で増加傾向にある。
- ・イヌスギナ、ハルタデ、ヤナギタデが多いが湿原の植物なので問題ない。
- ・2回の踏査とも植被は多くない。

- ・生育している植物種の多くはイヌスギナである。
- ・H25区画とH26区画の施工直後を比較するとH26区画の方が植生状況は良い。
- ・オオアワダチソウ等の外来種の侵入はみられない。

1-1. (2) 事業実施箇所の植生状況（平成27年調査）



1-1. (3) 事業実施箇所現地踏査結果①

【H24区画現地踏査結果】

【H24-1区画】

- ・クサヨシは少し生えている程度でだいぶ少なくなった。
- ・カズノコグサを見るのは希だがここは多く生えている。
- ・切下げ深40cm箇所は、ミゾソバが多く生えており、このまま維持されると想定される。
- ・切下げ深40cmの箇所は、一年草であるアキノウナギツカミやイヌスギナが多い。将来的にはアブラガヤに植生が変わるかもしれない。

【H24-2区画】

- ・切下げ深20cmの箇所は、1年経過しても状態の変化はあまり無い。クサヨシ、オオアワダチソウが入ってきて元の状態に戻りつつある。
- ・オオアワダチソウは、地下茎からではなく種から生えてきたと思われる。
- ・切下げ深20cmの箇所は、去年はハルタデが多かった。今年はヤナギタデ・サナエタデが多くなっている。
- ・切下げ深40cmの箇所は、イがビッシリ生えており外来種の侵入を防いでいる。
- ・旧川復元を行った茅沼地区と同じく、イはそのうちヨシに変わるとと思われる。
- ・切下げ深40cmの箇所は、イヌスギナも多く生えている。
- ・切下げ深40cmの箇所にもオオアワダチソウやアメリカオニアザミが生えて来るのは仕方ないが、群落として成長しなければよいと考える。

【H24-3区画】

- ・タマミクリ【準絶滅危惧(NT)】が見られたが、鳥によって運ばれたと推測される。
- ・湿原にもどる過程としては良い状態だと思われる。
- ・オオアワダチソウとクサヨシは7月と比べ勢いが無い。
- ・生えているオオアワダチソウは地下茎からではなく種から生えてきたと思われ、冬の間に枯死すると予想される。

1-1. (3) 事業実施箇所現地踏査結果②

【H25区画現地踏査結果】

- ・オオアワダチソウが少し入ってきている。特に中央の地盤の高い試験地で増加傾向にある。
- ・一部地盤が乾いている所があるので、今後注意が必要である。
- ・イヌスギナ、ハルタデ、ヤナギタデが多いが湿原の植物なので問題ない。
- ・2回の踏査とも植被は多くない。
- ・秋の調査ではこの地区の東側の大部分は水没していた。

【H26-1区画及び、H26-2区画現地踏査結果】

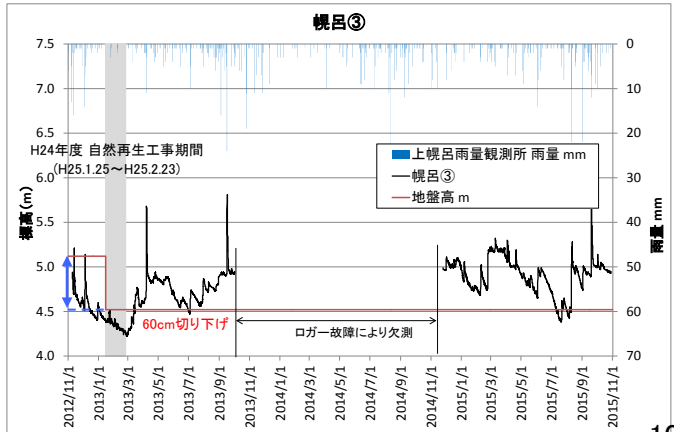
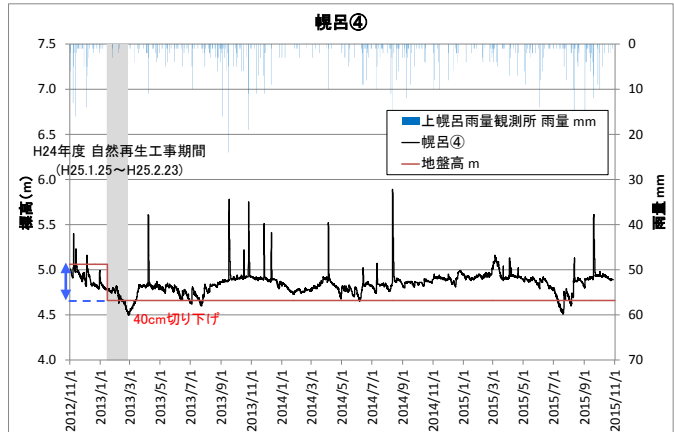
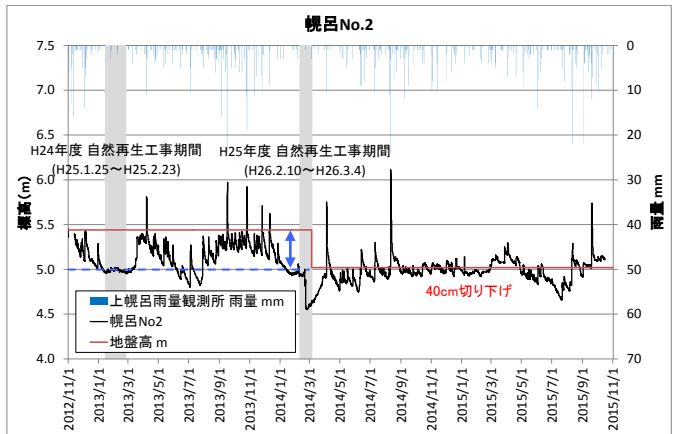
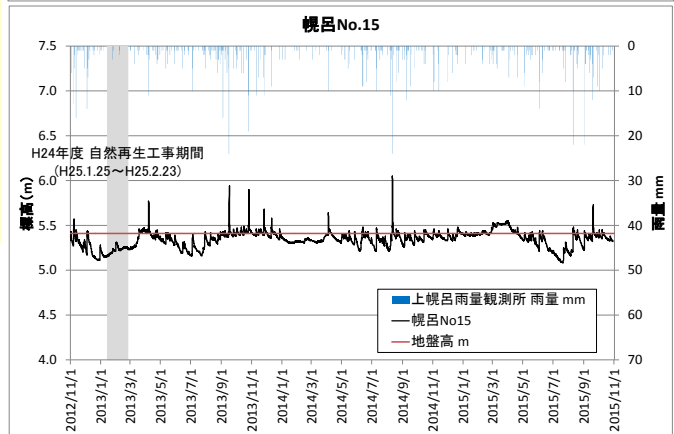
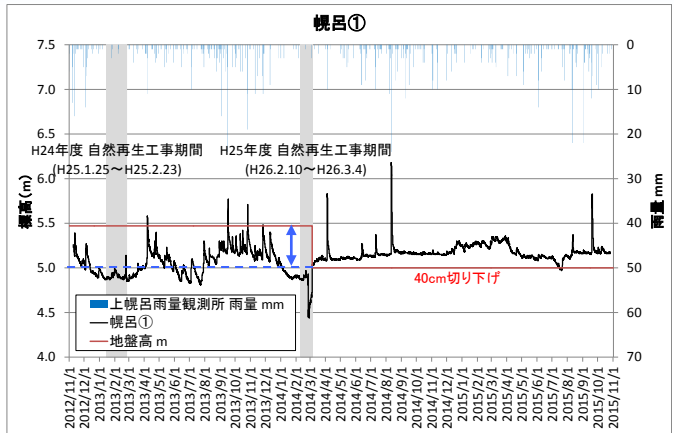
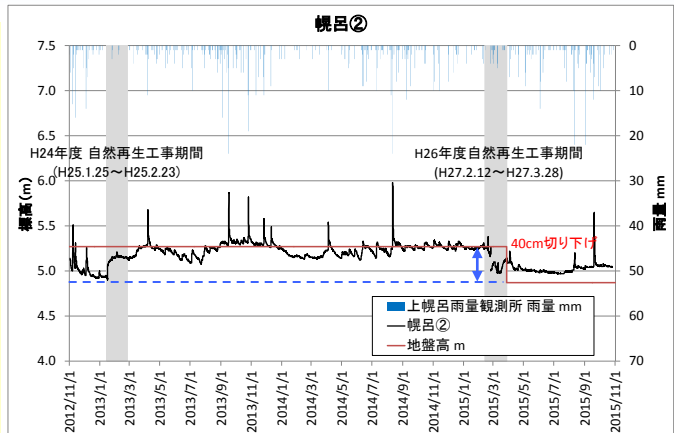
- ・生育している植物種の多くはイヌスギナである。
- ・H25区画とH26区画の施工直後を比較するとH26区画の方が植生状況は良い。
- ・オオアワダチソウ等の外来種の侵入はみられない。

【今後に向けて】

- ・切下げ深20cm以下の区域では、自生した植物の根が残っている可能性があるため、施工時に根の確認を行う。また、切下げ後にオオアワダチソウが分布した箇所は、順応的管理として切下げの検討を行う。
- ・今年の踏査でも、切下げ深40cmの箇所は植生の状態が良いと思われる。今後切下げ深40cmの箇所でオオアワダチソウが生えてきた場合、群落として成長しなければ経過観察とする。

1-2. 地下水位の観測結果報告

- ・ 幌呂①～④は、H24年追加観測地点。
幌呂No. 2, 幌呂No. 15は、既設観測地点。
- ・ 幌呂①の切下げ後は冠水状態となっている。
- ・ 幌呂No. 2の切下げ後は地下水位が地盤高に近い位置で変動している。
- ・ 幌呂③及び幌呂④の地下水位は、地盤切下げ後、ほぼ冠水した状態で、水位観測地点付近ではオオアワダチソウは見られない。
- ・ 幌呂②は切り下げ後は冠水状態となっている。
- ・ 幌呂No. 15は未利用排水路埋め戻し箇所近傍に設置されており、地下水位は概ね地盤高付近となっている。



1-3. 外来種（オオアワダチソウ） 調査結果報告

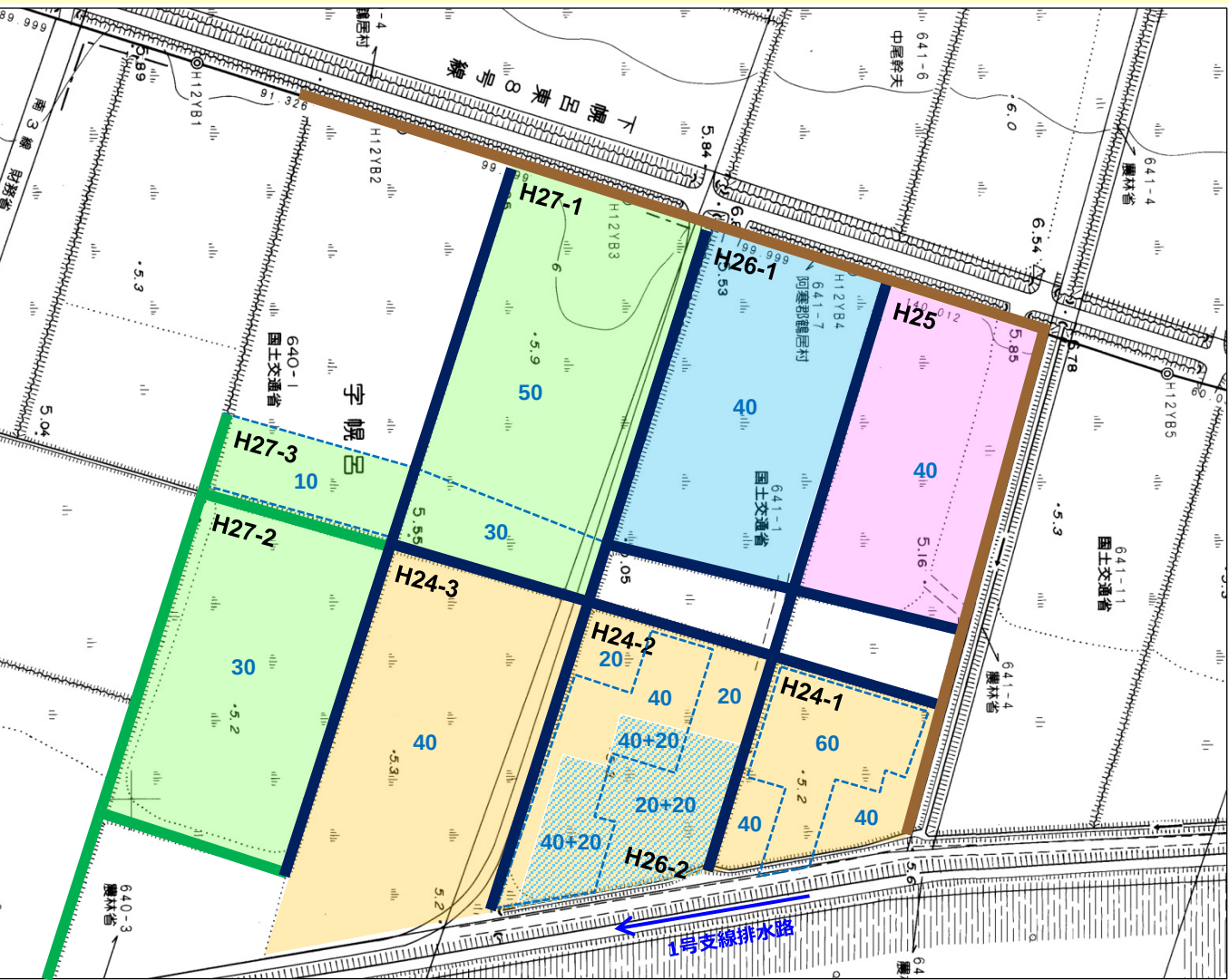
- ・ オオアワダチソウの自生状況について調査を実施し、その範囲を確認した。
- ・ 掘削範囲のうち冠水や湿潤状態が保持される区域は、オオアワダチソウの侵入はほとんどない。
（生育密度1本/m²未満）
- ・ H26年度に再掘削した範囲のうち、1号支川排水路付近は湿潤状態が保持されずオオアワダチソウの侵入が確認された。



2. 今年度の工事予定

2-1. 平成27年度の実施（案）について

- ・ 切下げ深は、現地踏査及び地下水調査結果を踏まえ、地下水面より0.1m低くなるように切下げ深を0.1～0.5mの範囲で設定した。（施工時には地下水位面や根の混入を確認するため試掘を実施予定）
- ・ 排水路埋め戻しは、過年度に実施した区間を延長させた。



平成27年度実施概要

切下げ面積	A=2.5ha
切下げ深	H=0.10～0.50m
排水路埋戻し	L=400m

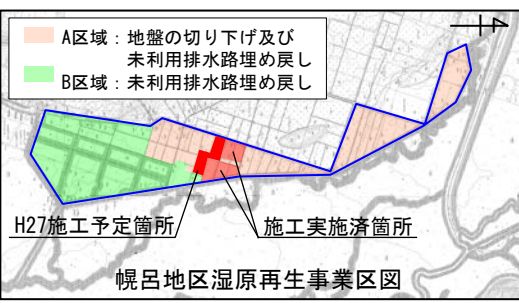


現地状況写真 (H25.8.20)

凡 例

- H27年度地盤切り下げ予定箇所
- H26年度地盤切り下げ箇所
- H25年度地盤切り下げ箇所
- H24年度地盤切り下げ箇所
- H27年度排水路埋め戻し予定箇所
- H24年度排水路埋め戻し箇所
- H24年度盛土箇所

青数字 切下げ深 (cm)



3. 地域との連携

3-1. 現地見学会（ヨシ移植会）の報告

開催概要

～みんなの手で湿原環境を再生しよう～

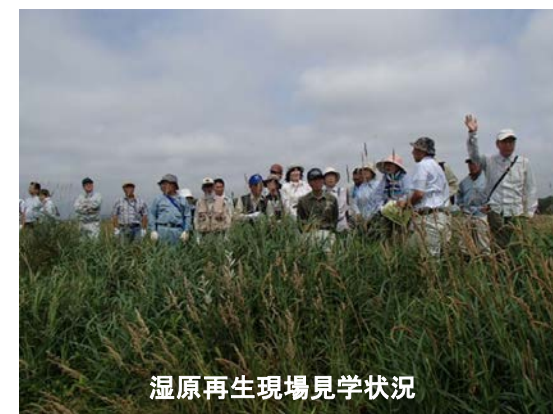
- ・開催日:平成27年8月4日(火) 10:00~12:00
- ・開催場所:幌呂地区 湿原再生区域 (鶴居村下幌呂)
- ・主催:釧路湿原自然再生協議会 湿原再生小委員会
釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会
- ・参加者:16名
- ・実施項目:幌呂地区湿原再生現場の見学
ヨシの移植体験

◆プログラム

1. 開会 (10:00~10:15)
2. 現場見学 (10:30~11:30)
 - ・事業説明
 - ・植生回復試験地見学
 - ・湿原再生現場見学
 - ・ヨシ移植体験
3. 閉会 (11:45~12:00)

参加者からのコメント（アンケートより抜粋）

- ・ 湿原再生事業に参加し、より良い環境に変化していく様子を今後も見守っていきたい。
- ・ ふる里でもあるので恩返しの意味で今後も自然再生事業に関わりたい。
- ・ 自然を感じることができる行事であり、今後も見学会を実施して欲しい。
- ・ 過年度に実施したヨシ移植箇所、ヨシが再生していた状況を確認できてよかった。
- ・ ヨシの成長速度等についても説明が欲しかった。
- ・ もっと釧路湿原のことをPRして市民に知らせて欲しい。
- ・ 全体的に移植等を実施する時間が不足している。折角、市内からバスで現地に来ているのだから、弁当持参でももっと移植等の時間を確保するべき。
- ・ 通常、見ることの出来ない湿原奥の見学会等も実施し見ることで本来の湿原を確認することができると思う。



平成28年度計画(案)

現地見学やヨシの移植を通じ、釧路湿原の現状や自然再生について理解していただく。

- ・募集人数:20名程度
- ・時期:7月下旬から8月上旬頃
- ・内容:現地見学及びヨシ移植